

授業科目名	教育の方法と技術	担当教員	松尾奈美、早川知宏		
開講年次及び学期	2年後期	必修・選択の別	選択		
開講形態	講義	時間数	30	単位数	2
<b>授業の目的（概要）</b>					
<p>本授業では、授業実践において必要となる教材研究、発問、学習指導案の作成、学習評価、ICT活用等の基本的な知識・理解を得た上で、具体例を基にしたワークやディスカッションを通じて受講者で協働的にそれらの知見を広げたり深めたりしていく。これらの活動を通じて、これまでの受けてきた授業や教育実践のイメージを転換し、今後あるべき教育の方法と技術の実践可能性を追究するのが本授業のテーマである。</p>					
<b>学修成果（到達目標）</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生徒の学習を促すための教材、発問、評価について具体例を挙げて説明できる。</li> <li>2. 学習集団を形成するためのポイントや方向性について説明できる。</li> <li>3. 授業実践を行うにあたって必要となる教材研究、学習指導案の作成、学習環境デザインについて基礎的な考え方を習得できる。</li> <li>4. スマートフォン等のメディアを活用し、生徒の情報活用能力を向上させる実践例を構想できる。</li> </ol>					
<b>キーワード</b>					
授業づくり、カリキュラム・マネジメント、メディアリテラシー					
<b>授業の進め方</b>					
<p>主にオンデマンドの講義形式で行います。話し合いの場面を設ける予定でしたが、オンデマンド形式になりましたので、ワークシートやミニツツペーパーに、分かりにくかったことや感じたことを積極的に出し合い、共有できるようにしたいと思います。他の受講生とも、意見を交流できるよう、moodleの定期的なチェックをお願いします。</p> <p>ワークシートやミニツツペーパーの活用を通して、講義の内容や紹介する理論や事例について理解を進めてください。指導計画の作成をしていただくので、各自タブレットやノートPCが必要となります。</p>					
<b>成績評価の方法（合否基準）</b>					
<p>小レポートを70%、期末試験30%とする。各回について、小レポートもしくは小テストの記入を行ってもらいます(5点×14回)。期末試験は指導計画を作成し、moodle上にあげてもらい、グループで協議してもらいます。個人の指導計画について、論述（根拠性、論理性、説得性）内容で評価します。</p>					
<b>教科書・参考書・視聴覚・その他の教材</b>					
<p>特に教科書は使用しない。授業内容に応じて適宜、視聴覚教材を利用したり、資料や文献を提示し、紹介する。</p> <p>参考図書：  深澤広明編著『教師教育講座 第9巻教育方法技術論』協同出版  稲垣忠編著『教育の方法と技術』北大路書房</p>					
<b>オフィスアワー</b>					
<p>必要に応じて適宜、メールにて日程調整します。  松尾：n.matsuo@edu.shimane-u.ac.jp  早川：hayakawa@edu.shimane-u.ac.jp</p>					

授業計画

回	日程	時間	場所	テーマ・授業内容	担当者
1	10/1	16:50～ 18:30	N21	オリエンテーション 教育方法の基礎理論	松尾奈美
2	10/8	〃	〃	学習指導要領の変遷とそれに伴う教育内容の変化	松尾奈美
3	10/22	〃	〃	集団指導・個別指導の方法原理	松尾奈美
4	10/29	〃	〃	子どもの実態に応じた教材研究・教材解釈	松尾奈美
5	11/12	〃	〃	情報機器の効果的な使用とその活用	松尾奈美
6	11/19	〃	〃	学力の形成と学習評価の基礎	早川知宏
7	11/26	〃	〃	授業における学習形態と集団指導	早川知宏
8	12/3	〃	〃	学級経営の方法と指導技術(1)曰学級の質的発展―	早川知宏
9	12/10	〃	〃	学級経営の方法と指導技術(2)曰複式学級の指導―	早川知宏
10	12/17	〃	〃	学級経営の方法と指導技術(3)曰学級の崩壊と再生―	早川知宏
11	12/24	〃	〃	インクルーシブ教育の方法と課題	早川知宏
12	1/7	〃	〃	学校づくりとカリキュラム・マネジメント	早川知宏
13	1/14	〃	〃	単元としての学習指導案の作成	松尾奈美
14	1/21	〃	〃	講義のまとめ および指導案の発表・協議	松尾奈美

備考